

室内環境学会環境過敏症分科会および
日本臨床環境医学会環境過敏症分科会 合同研究会オンライン会議
「With コロナ時代に、環境過敏症発症患者の発症予防を目指して」の報告

北條祥子¹⁾, 徳村雅弘²⁾, 鈴木高弘³⁾, 土器屋美貴子⁴⁾, 柳田徹郎⁵⁾, 星野陽子⁶⁾, 黒岩義之⁷⁾

¹⁾尚綱学院大学 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

²⁾静岡県立大学 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

³⁾東北大学 〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

⁴⁾大分大学 〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1

⁵⁾株式会社MTI 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-3-2

⁶⁾足利市立北郷小学校 〒326-0061 栃木県足利市田島町1

⁷⁾帝京大学医学部附属溝口病院 〒213-8507 神奈川県川崎市高津区二子5-1-1

The report of symposium "Aiming to prevent the onset of patients with
environmental hypersensitivity during the corona era"

Sachiko HOJO¹⁾, Masahiro TOKUMURA²⁾, Takahiro SUZUKI³⁾, Mikiko TOKIYA⁴⁾, Tetsuo YANAGIDA⁵⁾,
Yoko HOSHINO⁶⁾ and Yoshiyuki KUROIWA⁷⁾

¹⁾Shokei Gakuin University, 4-10-1 Yurigaoka, Natori-shi, Miyagi 981-1295, Japan

²⁾University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

³⁾Tohoku University, 6-3 Aramaki-aza, Aoba-ku, Sendai-shi, Miyagi 980-8578, Japan

⁴⁾Oita University, 1-1 Idaigaoka, Hasama-machi, Yufu-shi, Oita 879-5593, Japan.

⁵⁾Monohakobi Technology Institute, 2-3-2 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0005, Japan

⁶⁾Kitagou elementary school Japan, 1 Tajima-Cho, Ashikaga-shi, Tochigi 326-0061, Japan

⁷⁾Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital, 5-1-1 Futago, Takatu-ku, Kawasaki 213-8507, Japan

1. はじめに

2020年9月21日にZoomを用いたオンラインにて、室内環境学会 環境過敏症分科会および日本臨床環境医学会 環境過敏症分科会が主催の合同研究会オンライン会議「With コロナ時代に、環境過敏症発症患者の発症予防を目指して」が開催された。本会議には30名の参加があり、盛会の内に終了した。本会議での報告は、環境過敏症発症の発症予防に加え、コロナ禍における室内環境の重要性やコロナ対策についての内容であった。室内環境学会の会員の方々には役に立つ情報と考えられるため、以下にその概要を報告する。

主催：室内環境学会 環境過敏症分科会および日本臨床環境医学会 環境過敏症分科会

開催日時：2020年9月21日14時～17時

場所：オンライン(Zoom)

座長：北條祥子(尚綱学院大学)(写真1)

水越厚史(近畿大学医学部)(写真2)

オンライン会議設定責任者：鈴木高弘(東北大学大学院薬学研究科)(写真3)

2. 開会の挨拶(主催者代表 北條祥子, 尚綱学院大学名誉教授)

この合同勉強会は通算19回目となる。これまで、臨床環境医学会学術集会の際に開催していたが、COVID-19によって第29回日本臨床環境医学会学術集会が1年延期になったため、今回、はじめてのオンラインでの開催とした。会議の準備をしていた9月3日、副代表である水城まさみ先生(前)国立病院機構盛岡医療センター副院長)がご逝去された。そのため、予定していた第2部を一部変更し、「水城まさみ先生をしのぶ会」とした。

3. 第1部 勉強会の各講演者の講演タイトルおよび講演概要

3.1 新型コロナ対策としての換気(吉野博, 東北大学名誉教授)(写真4)

新型コロナウイルスの感染が我が国において2020年3月頃から急激に拡大してから、感染防止対策のための活動や情報発信が厚生労働省や学会などにおいて開始された。海外では武漢での感染爆発以降に、様々な研究が進んでいる。本報告では、すでに公表されている資料を基にして、新型コロナ対策としての換気について概説された。

3.2 日本の化学物質過敏症患者の網羅的遺伝子解析研究の結果(渡井健太郎, 国立病院機構相模原医療センター医師)(写真5)

どんな病気も遺伝要因・身体要因・環境要因が重なった時に発症すると考えられている。近年、遺伝要因を解析する手法として、網羅的遺伝子解析という手法が用いられるようになった。渡井先生ら国立病院機構の研究グループは、化学物質過敏症患者の遺伝要因を解析するため、化学物質過敏症患者332名と対照群1,070名を対象にした網羅的遺伝子解析を行い、両群の遺伝子を比較した。膨大な遺伝子データの解析途中で明らかになったいくつかの興味深い知見をご紹介くださった。今後、解析を進め、化学物質過敏症患者の遺伝要因を解明し、皆様にご紹介していきたいと話された。

勉強会では、参加者、角田和彦先生(かくたアレルギークリニック院長, 写真6)、浦野真弥先生(環境資源システム総合研究所所長, 写真7)、柳澤幸雄先生(東京大学名誉教授, 写真8)、篠原直秀先生(産業総合研究所主任研究員)、平久美子先生(東京女子医科大学東医療センター講師)、水越厚史先生および北條から質問・コメントが寄せられ、活発な議論がなされた有意義な勉強会であった。

4. 第2部 水城まさみ先生をしのぶ会の概要

4.1 追悼の言葉・黙とう(北條祥子, 尚絅学院大学)

1分間の黙とうに続き、北條が遺影のお写真を背景に、水城まさみ先生の御主人様の追悼文「優しく誠実に生きた妻へ感謝を込めて」を代読した。その後、北條が以下のように水城先生のご功績の紹介と追悼の言葉を述べた。

"水城まさみ先生(写真9)は、日本を代表する化学

物質過敏症専門医であり、国立病院機構の機関紙「医療」掲載論文の年間最優秀論文に授与される塩田賞を2度も受賞されるなど、優秀な研究者でもあった。2年前に、職場の検診で膵臓癌が見つかり、即、入院手術をされ、一時快復されたが、今年1月に再発された。再発が分かった時、北條に長いメールを下さった。メールには、「命尽きるまで化学物質過敏症患者さんの治療にあたりたい」、「今執筆中の一般医師・市民向けの本を完成させたい」と書かれていた。そして、亡くなる1か月前まで患者さんの診療に当たられ、本は第2校まで仕上げ、本の完成をみることなく、ご逝去されたことは残念である。水城先生のご冥福をお祈りします。"

4.2 水城まさみ先生の御遺著「化学物質過敏症対策—専門医・スタッフからのアドバイス—」(宮田幹夫監修, 水城まさみ・小倉英郎・乳井美和子著)(写真10)の紹介

共同執筆者である小倉英郎先生(医療法人高幡会大西病院院長)(写真11)、宮田幹夫先生(ビデオ参加, そよ風クリニック院長)(写真12)、および、乳井美和子先生(そよ風クリニック・管理栄養士)(写真13)が、水城先生への追悼の言葉と共に、上記の本の担当執筆部分について説明された。なお、上記著書の書評は、本誌に水越厚史先生が執筆しているので参照していただきたい。

4.3 参加者からの追悼の言葉

角田和彦、大澤稔(東北大学大学院医学研究科講師)、近藤加代子(九州大学大学院芸術工学研究所環境・社会環境デザイン講座教授)、土器屋美貴子(大分大学医学部公衆衛生助教)、上田厚(熊本大学名誉教授)、井上博之(宮城県保険医協会理事長)、黄琳琳(台湾正修科技大学准教授)、中里直美(前/国際医療大学熱海病院薬剤師)、寺田良一(明治大学文学部心理社会学科教授)、徳村雅弘(静岡県立大学食品栄養科学部助教)、富崎早苗(日本貿易振興機構アジア経済研究所)、星野陽子(足利市立北郷小学校教諭)が水城先生への追悼の言葉および"上記遺稿を普及する方法"などについて意見を出し合った。そして、本分科会としては、総力でこの本を普及することを確認し合った。

5. 閉会の挨拶(主催者副代表黒岩義之, 横浜市大名誉教授・客員教授)(写真14)

黒岩義之(主催者副代表)は、今回のオンライン会議を以下のようにまとめた。

"本オンライン会議第1部では、COVID-19とともに生きる今、あらためて良好な室内環境を維持する重要性が再認識された。また、化学物質過敏症患者を対象とした網羅的な遺伝子解析の報告を聞き、病態解明に向けたあらたな発見に感動した。質疑応答では、合同研究会ならではの領域横断的な見方が啓発され、よかった。第2部にて紹介された書籍(化学

物質過敏症対策[専門医・スタッフからのアドバイス])は、水城先生が長年にわたり、出版を悲願としていた「環境過敏症専門医が提案する"一般医に向けた過敏症患者への対応マニュアル"」である。この本を世に普及させることは、あまねく環境過敏症の理解を促すことにつながり、適確な診断と治療に寄与することが期待できる。COVID-19脳症と化学物質過敏症とは化学物質受容体からの情報伝達経路が障害されるという点で共通する一面もある。大変有意義なシンポジウムであった。"



写真1 北條祥子 先生

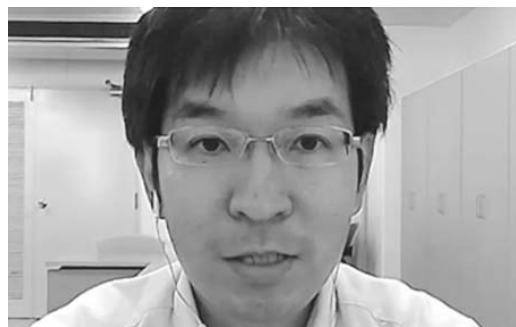


写真2 水越厚史 先生



写真3 鈴木高弘 先生



写真4 吉野博 先生



写真5 渡井健太郎 先生



写真6 角田和彦 先生

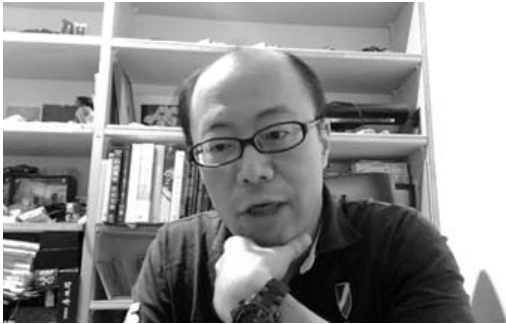


写真7 浦野真弥 先生



写真8 柳澤幸雄 先生



写真9 水城まさみ 先生 ご遺影



写真10 水城先生の御遺著



写真11 小倉英郎 先生



写真12 宮田幹夫 先生



写真13 乳井美和子 先生



写真14 黒岩義之 先生